

清泉カトリック センター便り

第13号
平成26年
8月25日

【編集・発行 カトリックセンター】

今月のみことば

「心の貧しい人々は、
幸いである」

(マタイ5・3)

八月十五日は終戦記念日ですが、
カトリック教会では「聖母被昇天」
の記念日として祝われます。

聖母マリアが天国にあげられたとい
う信仰に基づいた祝日で、一九五〇
年に教義の中にいれられました。

「心の貧しい人々が幸い」大変有名な聖書の言葉
ですが、「何故、心の貧しい人が？」といった疑問
をおこさせる言葉ですね。

これは「平地の説教」と呼ばれる説教の冒頭に
語られたイエスご自身のことばで、イエスに心を
開いている人々に向かって言われた言葉です。

イエスは言います。「私の弟子であるあなた方
にとって、貧しいことは幸いです。それによつ
て、あなた方は何よりも神に信頼する心が保た
れ、神に対する素直な心が養われます」と。

「貧しい者」とは、神の前に無一物同然である
ことを知っている人、つまり自分のみじめさ、弱
さ、愚かさを知ること、謙遜で柔和な、仕える
心を持った人のことです。

「幸い」と訳されている言葉の内容は、「神に

祝福され、恵みを受けた」状
態を意味し「ああ何と祝福さ
れていることでしょう」と相
手に向って心から「おめでと
う」と感嘆の声をあげている
のです。

『自分の心のみじめな状態
を知り、神により頼む者は、
何と幸せな、祝福を受けた人
なのでしょう！』

(文責：窪寺洋子)

7月、8月の活動報告

7月9日(水)シスター中村葉子さまの「東ティモール
から」特別公開講義がありました。東ティモールの歴
史から最近の事情まで。10年以上もの間現地で活動
されてきた経験に基づいた迫りに満ちたお話に、集
まった学生や一般聴衆も聞き入っていました。

8月4日(月)「建学の精神研修会」を神言会のマイ
ケル・シーゲル神父様をお迎えして実施しました。

教皇フランシスコからの贈り物

史上初めて、アメリカ大陸から
教皇に選出された教皇フランシス
コは、就任以来、カトリック信徒
のみならず、世界中の人々から愛
され、期待されています。その人
気の秘密は、常に、貧しい人々へ
の奉仕を最優先する誠実さと正義
と平和への責任感の強さに加え、
温かみのある素朴な人柄と溢れる
ユーモアにありそうです。人気
の教皇が、今までの教会と明確に
一線を画すご自身の方針を示し、
「惜しみなくかつ勇気をもって、
恐れたり禁止事項を設けたりせず
に適用するよう」と聖職者や信徒
に呼びかけたメッセージが『使徒
的勧告 福音の喜び』*です。半年
遅れでようやく日本語版が出版さ
れました。どこから読み始めて
も、思わずうなずいている自分に
気がつくはずですよ。いつも、なん
となくおかしいと思っていること
が、なぜおかしいのか。おかしな
ことにどんな態度をとればよいの
か、それらが明解で力強い言葉で
示されているからです。「自分の
安全地帯にしがみつく気楽さゆえ
に病んだ教会より、出ていったこ
とで事故に遭い、傷を負い、汚れ
た教会の方が好き」だと明言する
教皇は、教会は正義のための戦
いの傍観者であってはならない。
だから、愛をもって外部に開か
れ、他者・社会・世界に能動的に
関わっていく教会にならねばなら
ないVと呼びかけます。「路上生
活に追い込まれた老人が凍死して
もニュースにならず、株式市場で

2ポイントの下落があれば大きく
報道されるなど、あつてはならな
いことです。「教皇は、難しい顔
をして、世界と切り結ぶことを求
めているわけではありません。イ
エスのメッセージは常に喜びの源
であり、そこではだれも排除され
ることはないのだと静かに語りか
けます。わたしたち清泉に集う全
員が喜びにあふれて旅を続けるこ
とができるよう、教皇フランシス
コから贈りものを喜びとともに受
けとりましょう。勧告は回勅より
少し軽快で暫定的な感じがある文
書のようです。勧告はラテン語
ADHORTATIO の訳語ですが、この文
書には、勧告という法律用語より
「励まし」という日常語の方が
しっくりくるのではないかと思います。
(文責：芝山 豊)

